

**地震工学委員会**  
**平成17年度第2回(通算第20回)委員総会 議事録**

**日 時:** 平成17年12月9日(金)15:00～17:30

**場 所:** (財)電力中央研究所 会議室

**出席者:** (50音順, 敬称略)

顧問: 片山 恒雄

委員長: 家村浩和

副委員長: 川島一彦

幹事長: 室野 剛隆

副幹事長:

委員: 安中 正 岩本 利行 大友 敬三 大野 春雄 神山 眞 北原 武嗣 後藤 洋三 小長井 一男  
 坂井 藤一 清水 善久 竹内 幹雄 常田 賢一 中村 豊 成富 勝 橋本 隆雄 森 伸一郎

委任状: 石川 裕 泉 博允 伊津野 和行 今村 文彦 岩楯 敏広 運上 茂樹 江尻 譲嗣  
 大塚 久哲 大保 直人 片岡 俊一 川上 英二 河田 恵昭 木全 宏之 幸左 賢二  
 澤田 純男 志波 由紀夫 菅野 高弘 田中 努 Charles Scawthorn 中村 晋  
 中村 正博 西村 昭彦 野田 節男 濱田 政則 本田 利器 森地 重暉 山崎 文雄

幹事: 岩田秀治 佐藤 清隆 庄司 学 中山学 藤間 功司

委任状: 五十嵐晃 松田泰治 宮島 昌克 森 敦

代理出席: 堀宗朗

**配布資料**

- 資料20-1 地震工学委員会平成17年度第1回(通算第19回)委員総会 議事録(案)
- 資料20-2 第28回地震工学研究発表会論文賞・論文奨励賞の受賞表彰式
- 資料20-3 平成17年度小委員会活動中間報告
- 資料20-4 平成18年度事業計画
- 資料20-5 岡本賞の創設について
- 資料20-6 第28回地震工学研究発表会の開催報告
- 資料20-7 拡大運営幹事会の開催報告
- 資料20-8 地震工学委員会&ギリシャ地震工学会 合同WS開催について
- 資料20-9 パキスタン地震の地震調査について

**議事 総会成立の確認**

出席委員25名, 委任状32名, 計57名の参加で委員総会の定足数56名に達し, 総会の成立が確認された。

**1 開会挨拶 家村委員長**

- 地震工学委員会では, 土木学会全国大会の際に, 拡大幹事会を開催した。これに適合した活動したい。地震工学研究発表会を開催した。中越, スマトラ, 福岡, パキスタンと地震が多発したが, 積極的に活動されたと思われる。
- なお, 委員長から副委員長ならびに運営幹事団が紹介された。

2 **議長選出** 立候補者がおらず、幹事会推薦の神山委員が議長に選出された。

3 **前回議事録案の確認(室野運営幹事長) - 資料20-1**

内容は説明後、承認された。

4 **第28回地震工学研究発表会論文賞・論文奨励賞の受賞表彰式 - 資料20-2**

・選考経過：小長井編集委員長

・各部門で10%上限および査読者推薦の条件で選考した。11編の中、発表がない2編をのぞく9編から選考された。

論文賞2編，論文奨励賞2編が選考された。

(論文賞)

・常田賢一，小田和広，鍋島康之，江川祐輔：新潟県中越地震における道路施設の被害水準と道路機能の特性

・河井正，堀江正人：飽和地盤に埋設されたダクト構造物に関する遠心模型実験

(論文奨励賞)

・今村年成，室野剛隆，永尾拓洋：地盤による拘束圧を考慮したRC杭の変形性能の評価手法に関する検討

・ Said ELKHOLY , Kimiro MEGURO : NUMERICAL STUDY OF COLLAPSE BEHAVIOR OF STEEL BUILDINGS DUE TO EXTREMELY HIGH SEISMIC LOAD

・表彰状授与：家村委員長より表彰状および記念の盾が授与された。

引き続き，受賞者からお礼の挨拶がなされた。

常田氏： 中越地震の現地調査（盛土被害，ネットワークの重要性など）を論文にまとめた。耐震補強の重要性を再認識した。今後，土木工学の発展に貢献したい。

河井氏： 一人立ちした論文で受賞し感慨深い。実験結果を解析も踏まえて，今後研究を進めたい

今村氏： 鉄道構造物の杭基礎を対象に，地中の拘束圧を考慮することによって，変形性能が異なることに注目して論文にまとめた。今後，経済面も加味して設計レベルで考察したい。

市村氏： 受賞者は9月末，母国のエジプトに帰国し，現在 カイロ大学で講師をしている。日本での研究では，応用要素法をさらに進めた。賞金は必ず手元に送ります。

5 **平成17年度小委員会活動中間報告(各小委員会委員長他)**

(1) 耐震基準小委員会（代理：森委員）－資料20-3

・基準小委員会は年2回開催(11月16日に開催)し，3つのWGに分かれて活動している。

・事例集は「IS023469適合設計事例集」と2面性があるので，留意している。なお，土木耐震国際規格開発委員会はカナダで集まりがあった。

(2) 地震防災技術普及小委員会（大野副委員長）－資料20-3

・3つのWGに分かれて活動している。

・2006年5月に開催予定の実務者対象の「地盤動的解析」に関するシンポ，同年3月には「阪神・淡路大震災学習ツアー」をはじめ，7回シンポ・WSを開催予定している。

- (3) 地震被害調査小委員会（代理：橋本委員）－資料20-3
- ・ 8月16日発生した宮城県沖地震の地震被害を記録として残すために、メール審議で派遣を決定し、調査を実施した。
  - ・ 10月8日に発生したパキスタン地震に関する調査を10月24～31日、11月21～28日の2回に分けて行い、これまでの調査結果を含めて「近年の国内外で発生した大地震の記録と課題」と題したシンポを2006年6月7日に開催する予定である。
- (4) 地震時保有耐力法に基づく耐震設計法の開発に関する研究小委員会（代理：川島副委員長）－資料20-3
- ・ 2000年3月から始まった本研究小委員会は、最終委員会報告作成の段階である。
  - ・ 2006年2月2～3日に70編の論文が集まった「保耐シンポ」を開催する予定である。
- (5) 統合地震シミュレータ研究開発小委員会（市村委員長）－資料資料20-3
- ・ 計算機上で都市の震災をシミュレートしており、「産」も入ったNPO設立の準備をしている。
  - ・ シミュレート上の課題の抽出も行っている。なお、2年間の延長が認められた。
- (6) 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会（代理：藤間委員）－資料20-3
- ・ 2年間の延長が認められた。再公募して、46名の委員が参加して、「地域の防災」という「読本」を作成を目的として活動している。
  - ・ 「地震+津波の場合」の被害予測、インド洋での津波予測を行っている。
  - ・ 3月22日にワークショップ。平成18年度の全国大会で海岸工学委員会主催の研究討論会を協賛する予定である。
- (7) 地下構造物の合理的な地震対策研究小委員会（代理：竹内委員）－資料20-3
- ・ 年4回の小委員会を開催し、4WGに分かれて活動してきた。
  - ・ 今年度で終了し、2006年6月16日に「地下構造物の合理的な地震対策に関するシンポ」を開催する予定である。
- (8) 震度計の設置促進と震度データの利用高度化に関する研究小委員会（神山委員長）－資料20-3
- ・ 19名の委員が参加し、活動している。なお、近々では7月22日、9月22日に小委員会を開催した。
  - ・ 11月21日に日本地震工学会で、「震度計と強震計データの利活用」と題したオーガナイズドセッションを日本地震工学会「強震計データの共有化と活用法に関する研究委員会」とともに開催した。
  - ・ また、震度計の公開に向けて自治省へ働きかけており、川崎ラボから寄付をもらっている。
  - ・ あと1年の延長をお願いしたい。
- (9) 断層変位を受ける橋梁の計画・耐震設計に関する小委員会（代理：成富委員）－資料20-3
- ・ 東京・福岡と交互に3回開催した。
  - ・ JCIで行っていた活動の延長で、鋼橋、RC橋、PC橋を対象としている。
- (10) 数理物理的手法に基づく耐震設計法の新展開に関する研究小委員会（代理：室野幹事長）－資料20-3
- ・ 研究会としての方針を作成しており、7月12日に第2回の委員会を開催した。
- (11) 地震リスクマネジメント研究小委員会（代理：室野幹事長）－資料20-3
- ・ 11月25日に準備会を開催した。現在、委員を集めている。

## 6 平成18年度事業計画(室野幹事長) - 資料20-4

- ・ 理事会提出用に各小委員会から提出されたものをまとめた資料に沿って説明があった。
- ・ なお、1月10日に研究会の開催を予定し、土木学会論文賞の選考の予定である。

## 7 岡本賞の創設(家村委員長) - 資料20-5

- ・ 拡大幹事会でも議論となった「岡本賞」に関して、報告があった。
- ・ 岡本舜三先生が昭和57年6月藤原賞を受賞された際に寄付され、現在 岡本・国分基金として、約145万円が学会に残っている。
- ・ 海外調査の費用に当てることができると考えており、地震工学委員会総会で賛同を得られると、他委員会と共同で学会の理事会に提案したい。
- ・ なお、委員や顧問からの寄付も含めると「基金」となる可能性も残されている。

Q 運用などが課題となるであろう。

A 組織などについて古木専務と相談している。例えば、賞状のみとし、お金を使わないことも考える。

Q FUNDを募ることもありうるのではないか。

A ひとつの委員会だけでなく、他委員会との連携も考えている。

- ・ 以上の議論を踏まえて、理事会に提案することとなった。

## 8 報告事項等

### (1) 第28回地震工学研究発表会の開催報告(川島副委員長) - 資料20-6

- ・ 研究発表： 8月22～24日の3日間 東京工業大学で開催され、25セッションに分かれて、99編の査読論文が口頭発表された。また、ポスターセッションとして、81編の非査読論文が報告され、参加者は確定人数で449名であった。
- ・ 特別講演会： 中間日の8月23日に「首都激震、その時何が起こる」と題し、志方俊之先生(帝京大学)と浜田政則先生を講師として開催した。一般に方々から質問もあった。大田区、目黒区から35名の方々が参加され、一般の方への情報発信が重要であることが再認識された。
- ・ 技術展示： 11企業から12ブースを用いた技術展示が行われた。
- ・ 見学ツアー： 東京工業大学の実験施設の見学会が開催された。
- ・ 交流会： 参加費を¥1,000として、若手研究者が参加しやすくして開催し、約80名の参加者を得た。
- ・ 収支報告： 収入が447.8万円(参加費：387.8万円、展示出展料60万円)に対し、支出が283.8万円(管理費：89.6万円、システム委託費：108.1万円、会場費：27.5万円、印刷費：25.9万円など計283.8万円)で140万円程度の剰余金が計上される見込みである。
- ・ まとめ： 論文集編集では査読が集中あうるなどご迷惑をおかけした。本研究発表会は委員会活動の骨子となる行事であるので、活動の継続をお願いしたい。

また、今回開催した特別講演会には、一般市民の参加が目立ったので、今後も続けてもらいたい。

なお、将来は簡素化することも考える必要があるかもしれない。

## (2) 拡大運営幹事会の開催報告（室野幹事長）－資料20-7

- ・ 委員長・幹事長経験者などを迎えた拡大運営幹事会（9月9日開催）では、中長期的な議論

例えば 首都圏が襲われた場合の学会機能の移転，書籍の販売（コンクリート），コンサルティング（道路復旧の評価，土木緊急診断士），関連機関間からの問い合わせの窓口，地方における地震防災への協力，ジャーナル化，

といった内容が話されたという報告があった。

## (3) 地震工学委員会&amp;ギリシャ地震工学会 合同WS開催について（後藤委員）－資料20-8

- ・ 毎年，阪神・淡路大震災の学習ツアーとしてギリシャから来ている．この企画をされているアテネ工科大学と連携して，ワークショップをアテネで10月に開催し，約100名が参加した．
- ・ これに引き続き，2007年3月14～16日の3日間 第2回のワークショップを東京で開催する予定で，200万円の予算で日本国内で運営委員会の設立を試みている．

## (4) パキスタン地震の地震調査について（小長井委員）－資料20-9

- ・ 2005年10月8日発生したパキスタン地震の被害調査（10月24～31日に実施）の報告があった．
- ・ NPO（申請中）国境なき技師団の設立趣意書を土木学会に提出している．

## 9 その他

- ・ 特になし

## 10 閉会挨拶(川島副委員長)

- ・ 修士の学生によるアンケート調査によれば，一般市民は地震に対する関心が高い．その対応を我々技術者が実践せねばならない．

（記録 中山）

修正 Jun2nd, 2006